

## 市立図書館は閉館と解雇で予算削減を実現

ニューヨーク市は、2011 年度予算（ニューヨーク市の会計年度は 7 月から 6 月で、年度は終了月のある年と呼んでいる）で 4 兆 9,000 億ドルの赤字を縮小するため、事業の縮小や見直しを進めています。教育や医療・介護、住宅などに対する援助縮小・廃止と同様に、図書館の閉館や時間短縮もその取り組みの一つです。

ニューヨークタイムズ紙によると、貸出冊数から州内で最大と言われるクイーンズ図書館は、求職中の人や放課後の快適な勉強環境を求める学生たちや、コンピューターを持たないがインターネットを使いたい人たちが集まるなど、地域社会における重要な拠点としての役割を果たしていますが、7 月 1 日から始まる新年度からは、51 ある分館のうちクイーンズ図書館を含む 14 館を閉館、開館時間は半分に短縮、全職員の三分の一にあたる 412 名を解雇せざるを得ないとのこと。新予算の下では、週 7 日開館するのはただ一つだけとなり、34 の分館は週に 2~3 日しか開館しないこととなります。

クイーンズ図書館で若者向けサービスをアレンジする副代表は、「予算削減による図書館閉館は地域社会への影響が大きく、市民から情報文化や娯楽を奪うことになる」と危惧しています。

こうした行政サービスの縮小について、ブルームバーグ市長は「ニューヨーク州が財政赤字で市への予算配分を 13 億ドルカットしたことが主な理由」として、州政府を非難する声明を各メディア等通じて発信しました。一方で、州政府は「市は他の案も採りえたのであり、本当に必要なカットかどうか疑わしい」との応酬がありました。